

第6回世界男子7人制ハンドボール選手権

並びにヨーロッパ遠征報告書

(昭和41年12月～昭和42年2月)

● 第6回世界選手権出場全日本ハンドボール選手團



第6回世界男子7人制ハンドボール選手権日本代表選手団

(勤務先)

団長	馬場 太郎	65	日本協会副会長	大阪桃山学院大学教授
監督	村田 弘	42	日本協会理事 大阪イーグルス監督	大阪府立三国丘高校教諭
コ一チ (兼涉外担当)	勝 繁夫	38	日本協会理事 立教大学監督	立教大学専任講師
コ一チ (兼審判担当)	稻石 三二	38	日本協会審判部員 名古屋桜台高校監督	名古屋市立桜台高校教諭
コ一チ (兼経理担当)	中沢 重夫	36	日本協会理事 芝浦工業大学監督	芝浦工業大学助教授
主将(F P) 選手(G K)	青木 義男	26	大阪イーグルス	大阪佐野工高教諭 (日体大)
" "	尾竹 洋一	22	立大4年(都立神代高)	
" (F P)	江下 彦彦	20	中大3年(山口徳山高)	
" "	名井 次次	24	全立教大	KK三景社員(立大)
" "	吉晴 勇行	22	埼玉教員団	埼玉大宮高教諭(東京教大)
" "	近藤 信邦	22	常盤工業 KK	常盤工業KK社員(芝工大)
" "	根岸 夫夫	22	芝工大4年(名古屋桜台高)	
" "	飯端 寿彦	21	関学4年(大阪府立三国丘高)	
" "	森透 実彦	20	芝工大3年(山口徳山高)	
" "	田野 雄行	20	芝工大3年(名古屋桜台高)	
" "	木村 文雄	20	立大3年(大阪寝屋川高)	
" "	北村 誠行	21	立大3年(大阪寝屋川高)	
" "	飯田 武三	20	同志社大3年(京都伏見工高)	
" "	大西 武	20	東京教大3年(大阪寝屋川高)	

*……()内は出身校

*……役員の役職名は出発当時。選手の学年も同じ。

遠征より歸りて



日本選手団団長

馬 場 太 郎

全国スポーツ関係者、ハンドボール関係者の皆さんに帰国の御挨拶を申しあげます。

第6回世界男子7人制ハンドボール選手権大会に出場した日本チームはすでに報告されているとおり、予選リーグ（準決勝ラウンド）で西ドイツ、ハンガリーに2敗、ノルウェーに1勝。1勝2敗で決勝進出の希望は叶えられませんでしたが、大会の前後を通じてルーマニア、フィンランド、スウェーデン、スペインおよびフランスの各地を転戦し、数々の尊い体験をして全員無事帰国いたしました。

日本チームに対するIHF（国際ハンドボール連盟）をはじめ各国の関心は予想以上に高く、日本選手の洗れんされたいものです。

この小説が、そうした遠大な目標への達成のわずかでもお役に立てば幸に考えておりますし、機会あることにわれわれの経験を皆さんにお伝えし、共に“世界選手権獲得”という大目標に向かって手をたずさえていきたいと思います。

技術面では地域的に国際交流にめぐまれない不利な条件を克服してよく健斗したことと選手たちの態度は謙虚で礼儀正しく、スポーツマンとして禁酒、禁煙など国際人としてのマナーを身につけていたことは、大会の本拠地スウェーデンをはじめ各地で再三にわたって激賞されかえって面恥ずかしいほどでした。

以上、大変手前みそのことを申しあげましたが、われわれとしては世界選手権に出場するからには少なくともベスト・フェアの一角を切りくずすことでなければならないと

たマナーと競技場における卓越した技術に対してもむしろ驚きの眼をもって注視していました。

技術面では地域的に国際交流にめぐまれない不利な条件を克服してよく健斗したことと選手たちの態度は謙虚で礼儀正しく、スポーツマンとして禁酒、禁煙など国際人としてのマナーを身につけていたことは、大会の本拠地スウェーデンをはじめ各地で再三にわたって激賞されかえって面恥ずかしいほどでした。

以上、大変手前みそのことを申しあげましたが、われわれとしては世界選手権に出場するからには少なくともベスト・フェアの一角を切りくずすことでなければならないと

決意しておりました。が今回から出発まで、あまりにも余裕がなく、めんみつな計画をたてて進むべき今回のような大事業にとってこれは“致命的”なことでした。しかしながら、われわれ二〇名の役員・選手団は万難を排して目標に向かって邁進する意欲を燃やしつづけました。

しかし、依然として“世界の壁”は固く、10位に甘んじなくてはならぬことになつてしましました。

幸い一九七二年ミュンヘンオリンピック大会の基礎固めとして、今秋西ドイツチームの来日も実現される見通しがつき、日本ハンドボール協会としても、今後は多角的な

施策が計画されていますから、全国各地の総合力を結集して奮起いちばん、再出発したいものです。

最後に、今回の選手権大会

に出場の役員、選手諸君が自ら、全国関係者の皆さんには、我をころしてチームのため努力していただいたことに深い感謝と敬意を表するとともに、今後はそれぞれの地域々のチームで活躍されるよう念願いたします。

全国関係者の皆さんには、いろいろと御指導、御激励をいたしましたが、役員、選手を代表いたしまして厚く御礼のことばを申し述べます。多く

感謝。（日本協会副会長）

遠征成績 (17戦10勝7敗)			
42. 1. 2	○36-25	ルーマニア学生選抜	
1. 3	●9-34	ルーマニアナショナル	
1. 5	○22-32	ダイナモ・ブカレスト	
(以上ルーマニア親善試合)			
1. 8	○29-34	フィンランドナショナル	
(親善試合)			
1. 12	●25-30	ハンガリー	
1. 13	●27-38	西ドイツ	
1. 15	○21-16	ノルウェー	
(以上世界選手権準決勝リーグB組)			
1. 16	○34-24	ティレセエ	
1. 17	●23-24	ストックフォルム選抜	
1. 18	○32-25	リディング	
(以上スウェーデン親善試合)			
1. 23	○27-23	ベリラ	
1. 25	●21-27	スペインナショナル	
(以上スペイン親善試合)			
1. 26	○27-17	ステラ・スポーツ	
1. 27	○25-18	ストラスブルグ	
1. 28	○34-18	ビルモンブル	
1. 30	○30-13	フランダース選抜	
1. 31	○26-18	ノルマンディ選抜	
(以上フランス親善試合)			
※ 41年12月28日出発 42年2月4日帰国			

12月28日 午前10時に体協に集合、荷物の点検、出発最終詰め確認であつて、午後5時から体協で結団式、さらに歓送会。

盛大なる見送りと声援に“责任感”がひしひしと湧く精いっぱい努力し一つ一つ何かをつかんで来て、元気に日本の土を踏みたい。午後10時30分 エールフランス機にて出発（吉金）

12月29日 ベオグラードのホテルに午後8時ごろつく。予定のブタベスト入りが天候不順のため急ぎよ当地泊りが決定ともかく目的地についた。だらけた気分、甘い考えは一切捨てなければいけない。コチ團の注意もその点への苦言が多い。緊張がつづいたせいか自由な時間がわざかでも欲しい。それがチームワークづくりにもなると思う（青木）

12月30日 午後2時半、ブカレストにつき、LIDOホテルに入る。さすがにくたびれたが明日からよいよ試合。全体とチームワークでぶつかりよい結果が得られるよう頑張りたい（関根）

12月31日 昼食後ダイナモ体育館で練習。異国の地での最初の練習だけに足が地につかな

い感じ。早くコンディションをとりもどす努力をすることだ。（近藤）

42年1月1日 海外での元旦。家の者はどうな正月を迎えたろうか。午前の練習は昨日よりいくぶん体がほぐれたようだ。

午後、日本大使館に挨拶。せっかくのごちそう（日本料理）も午前の練習疲れあまりノドを通らず。夕食の時、食堂の樂団が日本の曲を演奏しおどりたりなつかしかったり……（尾

1月4日 久しぶりの快晴。2時間余りの自由時間が夕食後与えられ全員ストレス解消。

疲れは少しづつなくなつて来たとはいえまだ活気不足。一人一人が声を出してハッスル

1月7日 朝8時というのに外はまくら。しかも夕方は4時頃から暗くなる。

1時間程度の練習。コンビが次第によくなつて来た。

夜、日本大使館へ。おにぎりと土地名物の食事が舌にしみる（山田）

1月8日 フインランド・ナショナルと対戦。ルーマニアの審判になれたせいか勝手がちがう。接戦になつたがノーマークシューの失敗とディフェンスのもろさで敗れてしまつた。（近森）

1月9日 正午、大会地スエーデンにむかう。いよいよ本番だ。

午後7時から名門ダイナモブカレストと第3戦。攻守によく第一戦に勝つて気分はよい試合が出来るだろう。ともかく第一戦に勝つて気分はよい（木野）

1月3日 外国での食事にもなれて來た。寒い町を午前中買いたい物歩く。午後6時から試合。場内は満

員。前座として小学生ぐらいの子供の試合があつた。

今夜の相手はナショナルチーム。しかも前回の優勝国だ。スピードのあるローリングオフエンスと2・4からのロング・ボストで失点を重ね大差をつけられてしまつた（飯田）

1月4日 久しぶりの快晴。2時間余りの自由時間が夕食後与えられ全員ストレス解消。

疲れは少しづつなくなつて来たといえまだ活気不足。一人一人が声を出してハッスル

1月7日 朝8時というのに外はまくら。しかも夕方は4時頃から暗くなる。

1時間程度の練習。コンビが次第によくなつて来た。

夜、日本大使館へ。おにぎりと土地名物の食事が舌にしみる（山田）

1月8日 フインランド・ナショナルと対戦。ルーマニアの審判になれたせいか勝手がちがう。接戦になつたがノーマークシューの失敗とディフェンスのもろさで敗れてしまつた。（近森）

1月9日 正午、大会地スエーデンにむかう。いよいよ本番だ。

午後7時から名門ダイナモブカレストと第3戦。攻守によく第一戦に勝つて気分はよい試合が出来るだろう。ともかく第一戦に勝つて気分はよい（木野）

1月3日 外国での食事にもなれて來た。寒い町を午前中買いたい物歩く。午後6時から試合。場内は満

カレスト）を発ちヘルシンキに向かう。ルーマニアの印象はハンドボールが盛んなことと、そのプレーのスケールの大きさ、たくましさ。僕のハンドボール感を変えてしまいさせた。

ヘルシンキに夜9時着。雪。

1月11日 午後7時からキルナ市庁舎で開会式。

第1戦の相手ハンガリーの選手に接して、身長差があまりないことが判り、全員相当やれるのではないかと思つたようだ。前回日本がノルウェーに勝つたことを地元の新聞は“奇跡”といつてゐるらしい。今度は、それを“当然の勝利”にしようではないか（飯端）

1月12日 われわれの成果を試す日がやって来た……。結果は25-30。ハンガリーはエリック近くのボール廻しからボストを狙うプレーの成功と5本の7MTが幸した。

日本も攻撃ではよく頑張つたが、ディフェンスのつめの悪さが失敗だった。パスのキヤツチミスが目立つもの残念（大西）

1月13日 第2戦の日。昨日の試合で自信がついたのか立ちあがりは優勢だったが、じりじりつめられ逆転されてしまつた。西ドイツは長身を利用

たロングショートに加えてキ
メこまかいポストプレーがう
まかつた。日本は後半凡ミス

が多く自滅。2戦を通しての
課題は失点をいかにして少く
するかだ。守りさえよければ

充分互角のゲームが出来る。
キルナのファンは圧倒的に
日本びいき。嬉しいことであ
る。(吉金)

1月14日 前夜おそらくまでレセ
プションがあり、午前8時の
起床が辛かつた。
ひるまえキルナ鉱山を見学
したあとルーレオに向かう。
零下25℃。(青木)

1月15日 第3戦の日。今日は
守りに重点をおき前半4点の
リード。後半に入つてからは
速攻、ロングショートが自在
に決まり、なかばで勝利を確
定した。

この勝利でハンガリー戦、
西ドイツ戦の善戦もフロック
ではないということを明きら
かに出来た。

大手をふつて日本に帰ること
が出来よう。とにかく勝て
てよかつた。午後7時半から
レセプション(闇根)
1月16日 全員ヨーロッパのハ
ンドボールを身体で味い、大き
きな手で操作するクイックブ
レーにもなれた—われわれの

使命をあらためて考えたいとス
トックフォルムへの機上で想つ
た。(近藤)

1月17日 久しぶりの自由時間が
与えられた。買物をする。

今日で遠征日程の半分を消化
した。気分を新たにし残る日程
を全員一丸となつて進めた。

(江名) (江名) スエーデンの最終試合
を地元チームと行う。
わずかなミスが失点につなが
るが、外国チームはそうしたス
キをつくのが速くうまい。

1月18日 前夜おそらくまでレセ
プションがあり、午前8時の
起床が辛かつた。
ひるまえキルナ鉱山を見学
したあとルーレオに向かう。
零下25℃。(青木)

1月19日 ストックフォルムの宿舎はい
わゆる“スポーツマン合宿所”
だが設備は完璧。日本にもこ
ういう所が欲しい。(木野)

1月20日 ソビエト対デンマーク
戦を見る。技術より氣力が試合
を左右することが身にしみて判
つた。(飯田)

1月21日 木野君と飯田君が街で
8クローネ(約五百四十円)払
つて散髪して來たが、まるでア
メリカ・インデアン。これを見
て外のことやに出かける者がな
くなつてしまい夕食後各目の部

屋で“散髪大会”(大西)
見れる。

1月22日 優勝戦と3位決定戦を
決勝(チエコー・デンマーク)
は、後半デンマークの無暴なシ
ュートが目立ち、自ら敗戦の道

を選んだような印象をうけた。
それにもヨーロッパのハ
ンドボールはいつたいどこが強
く、弱いのだろうか。

各国に共通して云えるのは体
力、スピードがあることだ。
日本がヨーロッパに伍すには
この点をどうカバーするかを研

究する以外にないと思う(吉金)
1月23日 スエーデンに別れをつ
げマドリッドに向かう。
世界選手権での感想は各国と
もディフェンスのよいことと、
ボールをつかんで、その利点を
活かしたフェイントプレーが多
彩なこと。

1月24日 競輪場も兼ねるという
体育館で練習。夜は日本大使館
でさし、ちらしなどをごちそ
うになる(近森)。

1月25日 スペイン・ナショナル
チームと対戦。守りの悪さが出
て敗れたが、スペイン選手の出
足のよさは抜群。それと彼ら
の“あたり”的強さは異常なほ
どだ。(尾形)

1月26日 パリに向かう。到着
が連続して、フランスについて
なんとなくリラックスしたよう
だ(北村)

1月27日 パリから5時間半の街
につき試合。スペインからの移
動々々で最悪のコンディション。
精神力でそれを乗り切ろう
とする一丸の気持ちが実つて連
勝。(飯端)

1月28日 パリの町を午後から見
物。夜はビルモンブルの体育館
開きの試合。フロアーはグリー
ンでラインはプラスチック状の
ものが埋めてひかれ、それをラ
イトに照らして浮き出させる独
特のもの。

り大きくないが、プレーが強引
された(北井)。

1月29日 観光バスでベルサイ
ユ宮殿をはじめ名所をまわり
夜はショウ見物。楽しい一日
をすごした。

1月30日 村田監督と木野、飯
端君がTV出演。

午後10時近くから超満員の
ファンの前でリール選抜と対
戦、勝つ。ハンガリー戦以来
最高のできともいえる試合ぶ
りで、氣力、技術とも申し分
なかった。この調子がはじめ
から出ていれば全勝もできた
ろうに……(青木)

1月31日 遠征最終戦。この日
も会場(ルアン)は大観衆で
埋まり、われわれは一そろ張
り切った。地方チームとして
は手ごわかつたが、27-18で
勝ち、これでフランスでは全
勝。明日はいよいよ帰国の途
につく。皆んな。ごくろうさ
までした(近森)

2月1日 パリ→ロスアンゼル
ス(泊)

2月2日 ロサンゼルス→ホ
ノルル(泊)

2月4日 ホノルル→東京

シユートミスはあったが楽勝
ものです。

この遠征日誌は原文を報告
書編集委員によつてまとめた
ものです。